



J R 西口まちづくりニュース

発行/JR 宇都宮西口地区まちづくり協議会 NO : 8 / 2014. 6. 17

第 6 回全体会の開催について

5月27日(火曜日)14時から全体会を開催し、市のLRT整備推進室職員の方からLRT計画の検討状況について説明をいただきました。

今回の趣旨としては、西口において今後具体的な再開発の事業計画を作成する上で、LRTの検討状況を把握しておくことが有意義であることから、本協議会から市に説明を依頼し実施したものです。

以下にその内容のうち、ポイントとなる部分を記載します。

■宇都宮市 LRT 整備推進室より LRT の検討状況の説明

LRTは、従来の路面電車と異なった高いデザイン性、輸送力を備え、騒音や振動が少なく、乗り心地などの快適性に優れた「低床式車両」を活用した次世代型の路面電車システムのことを言います。LRTは、専用軌道の上を走行し交通渋滞の影響が少ないため、特に定時性に優れている輸送手段と言えます。

今回の説明の概要は、市が目指しているネットワーク型コンパクトシティ(機能性を高め、高度化した各拠点を円滑に繋いでいく街づくり)の説明や、現況の交通量の話、LRTの事例などの説明から、今後どのような検討が行われて、実現化していくのかについての説明でした。

■LRTの車両のイメージ

(上: 富山ライトレール、下: 広島電鉄)



■LRTの乗り降り(バリアフリー)のイメージ



■LRTの導入区間

現在、市においては導入区間として以下を想定しているとのことでした。

総区間 桜通り十文字付近から宇都宮テクノポリスセンター地区間の約15km

うち JR宇都宮駅東側が約12km

JR宇都宮駅西側が約3km

【導入ルート図】



■LRTの事業計画(東側からの整備の実施)について

計画によると、総整備費は「約383億円」で、トランジットセンター(交通結節点)の整備に「約28億円」、車両導入費に「約70億円」、走行路面整備に「約199億円」、車庫・変電所などその他の設備に「約86億円」を見込んでいるとのことでした。

■LRT 整備費の内訳

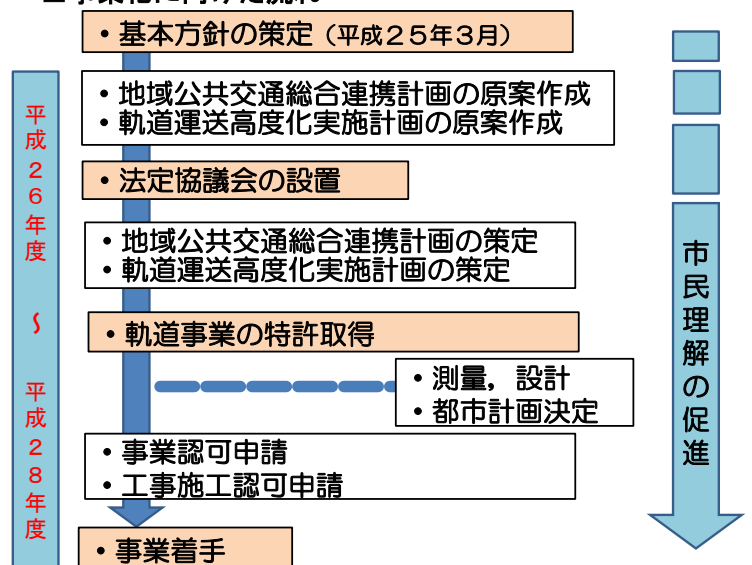


■LRTの事業化に向けた流れについて

LRTの事業化は、市が平成25年3月に策定した「東西基幹公共交通の実現に向けた基本方針」を踏まえ、今後は、各種計画の作成を行い、法律で定められた「法定協議会」を設置し、「軌道事業の特許取得」後、事業認可・工事施工認可申請を行い、平成28年度までに、事業着手(工事着工)を目指しているようです。

基本方針では、「JR宇都宮駅東側(約12km)」の整備から優先的に取り組む方針が示されているとのことでした。

■事業化に向けた流れ



本地区における対応について (LRTに関する要望の実施)

全体会において以下のような意見が出され、協議会役員会において改めて協議した結果、LRTについて駅西口を起点(発着)として東側と同時に整備が進められるよう市に要望する必要性が確認されました。現在、要望に関わる詳細を検討中ではありますが、平成26年度定例総会(7/8開催予定)の議案としたいと考えており、後日皆様に送付予定の議案書において要望内容を掲載する予定でありますので、内容を確認いただいた上で総会への出席をお願い致します。

【全体会での意見】

- LRTは西口整備への影響が大きい要素のためLRT計画を踏まえて再開発を検討する必要があるのではないか。
- 西口にLRTの停留所が整備されることで、開発ポテンシャルの向上に繋がるのではないか。
- 西口整備を前進させるためLRT(西口始発)に関する要望書を提出するべきではないか。

【事務局(コンサルタント)】

○(株)都市環境研究所 TEL: 03(3814)1001 担当: 滝井、中山